

○年報・課題委員会記事

二月十八日、本郷学士会館において、喜多野清一・福武直・中野卓・森岡清美・北川隆吉・松原治郎・蓮見首彦、事務局から、島崎

稔・田野崎昭夫、出席のもとに、委員会が拡大委員会としてもたれた。議題および決定事項は次の通りである。

1、才六回大会討論速記録の処置について  
共同討議の録音は、事務局の手で全部文字化し、発音者の補正がおこなわれたが、その処置について、委員会開催以前、中村吉治会員から事務局宛に「一、年報に速記録をフルにのせてはどうか、生地のままの方が面白いし、二、三の方に合評みたいなことを、つけ加えたらと思う。もしできれば、その場合、私も誌上参加をしたい。二、フルにのせることが困難ならば、抜粋でものせてみたら如何。その場合には、場合によつて余裕があれば、誌上参加として私も参加したい」、という意見が寄せられてきており、この意見を参考に検討がおこなわれた。結局、全文掲載は不可能であるから、東北北海道・関西九州・東京の三つの地区に分けて、竹内利美・喜多野清一・福武直三委員が、各地区の発音者の意図をそれぞれとりまとめ、論評を加えた要約を作成し、その要約を署名入りで年報巻末に掲載することになった。

2、今年度の年報論評について冒頭、喜多野委員から、本研究会の機関誌として責任のある編輯を意図すべきであるとの意見が述べられた。その意図のもとに、今年度の年報は、共同体の理論と現実に対する積極的な見解の発表を期する編輯を心掛ける、こととなった。執筆は次の諸会員に依頼することに内

定した。

○独立論文(各四〇枚)

中村吉治・島田隆・余田博通・鈴木広  
・蓮見首彦・布施鉄治

○才六回大会討議要約(各三〇枚)

竹内利美・喜多野清一・福武直  
○共同体論の系譜と文獻(仮題・四〇枚)  
島崎稔・松原治郎

○学会動向(各一〇枚)

歴史学(未定)・地理学(菅田慶治)  
・社会学(田原音和)・経済学(上原  
信博)・法律学(未定)・民族学(村  
武精一)・民俗学(平山敏次郎)  
民族学・民俗学は従来の成果もふく  
め十五枚

以上の通りである(島崎 記)